

九

州

ネ

ツ

ト

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

北九州市開催 <焼うどんラウンド> R5.11.4 北九州市立西小倉小学校・オンライン

秋深まる時期に北九州市立西小倉小学校にて焼うどんラウンドが開催されました。西小倉小学校は以前より健康教育に力を入れている学校です。学校の中に石碑も「知・徳・体」ではなく、「体・徳・知」となっており、「何をするにも資本は体」と言わんばかりに大きく掲げられていました。

開催にあたっては、今年度も対面とオンラインのハイブリッドで実施しました。北九州市内だけではなく、九州、関東や北海道からもオンラインにて参加いただき、大学生も含めて総勢28名が集まりました。11月というのに、暑い時期が続いていることもあり、研修会も実践発表やワークショップ、そして佐藤先生の厚く・熱いものになりました。テーマは「小・中・高の12年間を見通した系統性のある授業づくりについて」ということもあり、参加された先生方も小・中・高の垣根を越えて交流を深めることができました。



【体・徳・知】の石碑

1 北九州市における体育授業について(北九州市教育委員会)

まず、北九州市の体育の授業の現状について北九州市教育委員会から説明がありました。北九州市では、新体力テストの数値が全国と比較すると少し上回っている状況があります。しかし、体力の数値を挙げることに終始するのではなく、「体育の授業がたのしい」「運動量が豊富」ということが大切であること。また、「個別最適な学び」や「協働的な学び」をいかに授業づくりの中に仕組んでいくのかを考える必要があること。その結果、体力を向上させていくという考え方が必要であることについて確認をしました。北九州市では研修会を実施したりや体育を専門としていない先生が授業がしやすいようにするためのプログラムを作成する等、授業改善を進めているという話がありました。

2 小・中学校における体育の授業実践について ~ICTの活用~

次に、北九州市立洞北中学校の田口先生より、小・中学校における体育の授業実践について、ICTの活用を基軸とした実践発表がありました。田口先生は、小学校において体育専科を経験し現在は中学校で勤務していることから、小・中学校の系統性について改めて閑雅ながら授業を組み立てていく必要があるということについて説明してくれました。また、ICTを活用することで、友だちと見合うポイントを共有したり、実技テストを動画撮影とし「自分史上最高の出来栄」の映像を提出するために何度も挑戦できるようにしたり、運動が苦手生徒は撮影しアドバイスをするという役割を与えるなど、授業づくりの可能性の大きさについて話してくれました。

3 コンテンツマップを用いた系統性のある授業づくりについて

実践発表後、系統性の重要を確認した上で、コンテンツマップを活用したワークショップを行いました。対面の人は付箋を活用し、オンラインの人はオンライン上で実施しました。「なぜ、この段階でこの単元が仕組まれているのか分かった」「小学校段階で学習したことを理解した上で、中学校は授業づくりをしなければならない」など、新たな発見をすることができました。

